

# エコニュース さって



第 45 号

平成 24 年 11 月 2 日  
幸手市市民環境会議  
(さって市民環境ネット)  
TEL48-0331

## エコライフDAY 2012の結果報告 報告：八木 平成24年度は7,140人の方に参加していただきました。

平成24年7月15日(日)に実施(小・中・高校生は7月8日)したエコライフDAY 2012は多くの皆様に参加いただき真に有難うございました。

このエコライフDAYという取り組みは、家庭からの二酸化炭素排出量削減を目指してライフスタイルを変えるきっかけ作りとして実施しているのもです。エコライフDAY用チェックシート(1日版の環境家計簿)に書かれている身近な省エネ・省資源につながる行動を行い、その中で出来た項目をチェックし、日常生活の様々な場面で二酸化炭素が発生していることを知っていただき、その中で、ちょっとした工夫や努力をすることで、二酸化炭素が削減できることを実感していただきます。

取組み結果は

|                     |   |
|---------------------|---|
| 参加者総数<br>(対人口比率参加率) | <b>7,140人</b><br>(13.4%)  |
| 二酸化炭素削減量            | <b>4,417,326g</b> (*)<br>*:杉の木(高さ約22m、胸高直径26cm, 50年生)<br>約316本が1年間に吸収する量に相当 |

(\*出典:「地球温暖化防止の為の緑の吸収源対策」環境省・林野庁発行)

参加いただいた方の感想(一部抜粋)は

小学校1～3年生からは

- ・今日は少し暑かったけど、扇風機を使わずに窓を開けて過ごせました。
- ・節電しみんなが楽しく暮らせるように力を合わせて頑張ろう。

小学校4～6年生からは

- ・ちょっとしたことでもこんなに変わるんだと分かりました。
- ・公共の乗り物を利用することでエコにつながる事が分かりました。

中学生からは

- ・普段からエコのことを考えていなかったのが、改めて意識して生活しようと思った。
- ・環境問題を人の手で解決できるように、多くの方が協力できたらいいと思います。

高校生からは

- ・これからは全部〇がつくように努力したい。
- ・皆で協力してそれが広まればいいと思う。電気も大切だし、リサイクルにもっと協力したい。

一般からは

- ・環境を考えた生活を心がけていたつもりだったが、意外と出来ていない事に気付いた。今後出来ることをしていきたい。

以上が今年度のチェックシートの結果ですが、さって市民環境ネットの取り組みはこれ以外に幸手小学校、南公民館への緑のカーテン(ゴーヤ)作りやエコライフDAY関連事項を記したポスターを市役所入口に掲出などをおこないました。

## 腐葉土つくりの会活動報告 報告：澤村

**第86回** 今年も会員の協力で奥マメを育苗、約1000本を植付けました！ 草取りと第1回目のサツマイモのつる返しを行いました！



17日梅雨明け後、3日間真夏があり、その後、25℃以下の涼しさが続き、7月22日（日）朝、涼しい曇り空の下で27名が参集して作業を行いました。

会長の挨拶後、事務局から奥マメ植え、サツマイモのつる返し作業案内をして分担で作業を開始しました。

奥マメ植えには、先ず地主が耕した後に雑草が散乱しているので草拾いし、90cm間隔の畝づくり、タツプリの水やり、水が土に吸われた後に40cm間隔で2本ずつ苗を植えていきました。その後、更に水をやりました。育ち過ぎた苗と丁度良い苗、約1000本を植えることができました。育苗して頂いた方々に感謝申し上げます。

サツマイモのつる返しは、伸びたつるから根が出てそこに養分がいくとイモが大きく成らないために枝根を切ってしまう作業で、バリバリと枝根を切って枝を交互に両側に倒しました。また畝間に沢山生えた雑草をとりました。

以上の作業は、略1時間で終了しました。

最後に天気予報では、翌日、月曜日から本格的な夏に戻り、火曜日からは真夏日、猛暑との予報であり、植えたマメ苗が根付くまで水やりしないと枯れてしまうので、火、水、木の3日間、有志の方々に夕方の水やりをお願いしました。

次回は、8月19日（日）8時から草取り、2回目のサツマイモのつる返し、マメの土寄せなどを行うことを案内して散会しました。

なお、奥マメ苗を植える前に、タマネギ栽培、前年のサツマイモ栽培で畑がヤセていたのので、7月8日（日）、木村さんに小型トラック輸送を協力して貰い有志7人で熟成腐葉土と化成肥料を撒きました。その後、地主にサツマイモ畑以外の空き畑をトラックターで耕して貰いました。

**第87回** 先月植えた約1000本の奥マメが全て育ってます、土寄せをやりました！

19日（日）予定していたのですが、1週間早く12日（日）、8時から15名が参集して草取り、奥マメへの追肥、土寄せを行いました。先月、有志の協力で苗を植え付けた後、3日間、水くれをやってくれたのでマメが全て育ちました。有難うございました。新芽も出て背丈も伸びてきたのでできる限り早く土寄せをする必要があり、しかも雑草が繁茂してきたので1週間早めたのが1つの理由です。さらに、南の海では台風がひん発しており、いつ来襲するかの懸念もあるので早めの土寄せを行ったのももう1つの理由でした。

12日は、会長から10月28日（日）開催予定の行幸湖浮きウキフェスタ24の案内があった後、事務局から作業内容の説明があり、草取りは全員で行い、追肥は奥側のマメへは多めに、道路側のマメへは元肥が施してあったので控えめに施した。追肥後、クワや立ちガマを使って土寄せを行いました。

12日は、薄曇りで気温は高くなかったのですが大変蒸し暑く全員が汗ビショリかいたので水分をとりながら作業を行いました。また前日、夕立ちがあったことから土が湿って

柔らかくなっていたので作業がし易くなっていました。立秋も過ぎてこれから雨も時々降ることが予想されているのでマメの発育が進むことを期待しています。

また、サツマイモの2回目のつる返しを行いました。根の近くの土にヒビ割れが起こり始めており、イモが生長しているようです。ただ、一寸水不足を感じました。

今回は、9月16日（日）、9時、桜泉園集合を約束して散会しました。

## 第88回 今年度最初の落ち葉集めと仕込みを行いました。また、畑の草取りをしながら奥マメとサツマイモの生長を確認しました！

9月16日（日）、9時から、30℃を超える残暑厳し過ぎる中、桜泉園に22人が参集して今年度最初の腐葉土づくりを開始しました。冒頭、会長の挨拶があった後、事務局から3グループに分かれて作業するよう案内をしました。先ず女性群は桜泉園の敷地外の落ち葉集めを担当し、男性群は3番目の床に残っている熟成腐葉土の袋詰めと環境課で既に集めて頂いた落ち葉と女性群が集めた落ち葉の仕込みを、そして男性群の一部は畑の草取り担当し作業を行いました。会員の方々は既に何年もの経験があり効率的に作業を行っています。

畑は日照り続きでしたが、思った以上に雑草が繁茂していて、しかも残暑厳しい炎天下で、当初3人で汗ビッショリの作業をしていたところ、落ち葉集めを終了した女性群が支援に来てくれて助かりました。草取りを終了後、サツマイモがイモ掘りできるまでに生育し、一株に3本の生っているのを確認できました。また、マメも少し背丈が小さいですが多くの房がついていることも確認できました。今後の収穫が非常に楽しみです。畑作業を全て終了して桜泉園に戻り、詰めた熟成腐葉土の頒布を行いました。

今回は、奥マメの生長が予想より早いことから9月末の日曜日（30日）又は10月初めの日曜日（7日）に収穫を、そして次々回、14日（日）にサツマイモ掘りを約束して散会しました。

## 幸手にも古代米がやってきた！ 報告：本田

9月16日（日）、腐葉土づくりの会の後に会員有志は古代米の田んぼに出かけ、始めて見るみごとな田んぼアートに眼を見張りました。

古代米を栽培しているのは、会員の木村正彦さんです。田んぼがある惣新田は幸手でも東の端の江戸川河畔で、町の人にはなかなか行くことがありません。

木村さんの案内で途中、江戸川の川岸でめだかの生息する小川や発掘調査中の槇野地貝塚遺跡、モロコの養殖池を見た後、江戸川を渡って田んぼに向かいました。

古代米は、もち米なので、周りの田んぼより稔りが約1ヶ月遅く、古代米の田んぼは遠くからも彩りがはっきり見えました。近づくにつれて、黒や紫、緑、黄色と鮮やかな色が眼に入ってきました。とても稲とは思えないその風景に皆、息をのみました。手にとって見ると、もみや茎の色がそれぞれに特徴があって、まるで美術品。持って帰って、飾りたい、見せたいという願いを木村さんが快く承知してくれましたので、おみやげにもらって田んぼを後にしました。

# 実りの季節の中川探検

報告：石井

## 第6回 中川探検ウォークの実施報告

○日時：平成24年10月20日（土）10時～ ○天気：快晴

○観察地：幸手市東公民館 ～天神橋～ クヌギ林

○参加者17名（一般参加7名、講師1名 スタッフ9名）

長い夏が終わり、中川の河川敷やクヌギ林にも秋の気配が感じられる頃になりました。河川敷にはキツネノマゴ、カントウヨメナなどの草を、クヌギ林ではムクノキの黒く熟した実を見ることができます。一年の中でも最も良い季節になりました。

10月20日（土）、第6回中川探検ウォークを行いました。春の観察会が雨のためできませんでしたので、10月に観察会を実施しました。秋の観察会の活動のねらい、目的を明確にして準備を行いました。活動の中に『学習』という要素をたくさん含ませることにしました。具体的には光学機器を活用し、未知の世界を覗く楽しさ、驚きの場面を設定することにしました。

秋の観察会には青柳氏にご指導いただきました。秋の中川で観察出来た野鳥は13種類でした。そのうち1種類は鳴き声から“ツミ”ではないかとのことでした。冬鳥たちの季節にはまだ早いので、観察できる野鳥は少ないとのことでした。約2Kmの探検で印象に残ったことはセイバンモロコシの広がりです。探検コースのすべてにセイバンモロコシを見ることができ、河川敷の生態に変化が起きている印象です。しかし、クヌギ林周辺は多くの野草に接することができ、イヌタデ、カントウヨメナ、キツネノマゴなどが群落で見られました。ムクノキ、エノキも河川敷に枝を伸ばし、ムクノキの熟した実は舌で味わう学習体験でした。

その後、東公民館に戻りまとめの学習を行いました。ルーペ、双眼実体顕微鏡を使い「イヌタデ」の赤い実を調べてみました。「アカマンマ」の別名のある赤い実は学習の最適の教材です。また、河川敷で採取した「オニグルミ」の実を割って試食してみました。

参加者の皆様の楽しいそうな表情や、スタッフの明るい対応、そして毎回熱心にご指導くださる青柳様、ご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

（さわやかな秋の日差しの下、楽しく探検ウォークができました）



**幸手の環境活動グループ**：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手地産地消研究会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっと、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）、エコクラブW32（いきがい大学鷺宮学園32期）